



## - B型肝炎から赤ちゃんを守るために - B型肝炎ワクチンの出産後早期接種について

### B型肝炎とは？

B型肝炎は、B型肝炎ウイルス(HBV)の感染により起きる病気です。

HBVに感染すると、急性肝炎(黄だん、倦怠感など)になりそのまま回復する場合もあれば、症状が出ずにHBVが肝臓に潜伏して持続感染(キャリア)し、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝がんなど命にかかわる病気を発症することもあります。

免疫機能が未熟な赤ちゃんがHBVに感染した場合、90%がキャリアになると言われています。

### B型肝炎を予防するには？

赤ちゃんがHBVに感染する原因は、大きく分けて2つあります。

HBVに感染しているお母さんから出産時に感染する【母子感染】

HBVに感染している周囲の人との接触(唾液や汗など)で感染する【水平感染】

HBVの感染を予防する有効な手段としては予防接種(ワクチン)があります。B型肝炎ワクチンを接種することで、HBVへの抵抗力(免疫)ができ、肝炎の発症だけでなく、キャリアになることを予防できます。

### 妊婦健診で感染していることがわかったら・・・母子感染の予防

出産後12時間以内を目安に、赤ちゃんに感染予防の注射とB型肝炎ワクチンを接種します。その後、1回目の接種からの1か月後と6か月後の2回、ワクチンを接種します。これらの接種には健康保険が適用されます。

### ご家族にキャリアの方がみえるときには・・・水平感染の予防

同居のご家族や里帰り先のご家族にHBVのキャリアの方がおり、医師が医学的に早期にB型肝炎ワクチンの接種が必要であると判断した場合は、担当にお問い合わせください。  
出産前の手続きにより、出生後早期から使用できる接種券を発行します。

【担当】岡崎市保健所 保健予防課

電話：0564-23-6714 FAX：0564-23-6621

受付時間：月～金曜日 8時30分～17時15分(祝日を除く)

